

平成23年度 学校評価実施報告

香川県立三豊工業高等学校

1 平成23年度学校評価の重点目標

	分野	重点目標
1	教育活動	① 基礎的・基本的な知識や技術を確実に身につけさせる。
		② 高度熟練技能者の育成を進めるとともに、各種資格・検定に積極的に挑戦させる。
		③ ものづくりや部活動等に積極的に取り組ませる。
2	学校運営	④ 校務の効率化を図り、生徒と向き合うことができる時間を確保する。
		⑤ 積極的に情報発信し、地域との連携・協力を図りながら信頼される学校を目指す。

2 評価のまとめ

※数値評価は(4:大変よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない)の平均

	項目	校内評価委員			学校評議員評価平均
		評価平均	成果について	課題	
1	①	3.3	生徒の興味・関心を引き出させ、活気のある授業が展開できる場面が多くなった。検定や標準テストを重視し、基礎・基本の定着や丁寧な指導が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣が身につけていない生徒、基礎学力が不十分な生徒への対応。 能力の高い生徒をさらに伸ばす取り組みの必要性。 授業に対する意欲や集中力に欠ける生徒への指導。 	3.4
	②	3.8	課外などのきめ細やかな指導で様々な検定や資格試験に挑戦させ、一定の成果をあげている。それが技術・技能に対する意欲や進路に対する前向きな意識の向上につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と資格・検定課外の時間調整が難しい。 資格により、合格率にまだまだ向上の余地がある。 意欲の高い生徒の要望に応え切れていない状況がある。 休日の講習会なども増加し、学校担当者の負担が増加している。 	3.8
	③	3.8	課題研究やものづくり体験、地域でのイベント参加などを通して、意欲的かつ自主的に活動できるようになりつつある。社会人講師招聘や、知的財産推進教育も積極的に行われている。また、多くの生徒が放課後の部活動に熱心に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 全員入部が原則だが、途中退部や欠席生徒への指導の工夫が必要である。 文化部の活性化を図る 運動部も県大会において活躍・健闘しているが、全国大会への出場が果たせていない。 使用する設備や原材料、予算の充実が望まれる。 	3.6
2	④	3.5	他校に比べ校務のスリム化がなされており、放課後の部活動や個別の学習指導など、生徒と接している時間は多い。生徒をいかにやる気にさせるかが教師力であるが、本校のそれは大きいと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> 会議などで生徒と向き合う時間が減少しつつある。 学校行事のさらなる精選が必要。 教員全体での指導を行う姿勢。 お互いにサポートしやすい仕事の組み合わせ。 	3.1
	⑤	3.9	三豊工祭やサイエンスフェスタなどの公開行事、養護学校や保育所との交流など積極的に行われている。持久歩大会や体育祭参観など、保護者の参加が増えつつある。また、三豊工だよりやホームページ等を通して、十分に情報発信をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 発信文書が一部の保護者に届いていないことへの対策。 PTA活動を役員以外にも周知できるさらなる工夫の必要。 地域の人的・物的資源の一層の活用。 現在の連携や発信の成果が、入学希望者増につながってほしい。 	3.8